

## 富士山の火山活動解説資料（令和4年12月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1）  
萩原監視カメラ（富士山山頂の東南東約18km）による観測では、噴気は認められません。
- ・地震や微動の発生状況（図2、図3）  
火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。  
火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図4、図5）  
GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 富士山 山頂部の状況（12月28日 萩原監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和5年1月分）は令和5年2月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 2500（行政界・海岸線）』を使用しています。

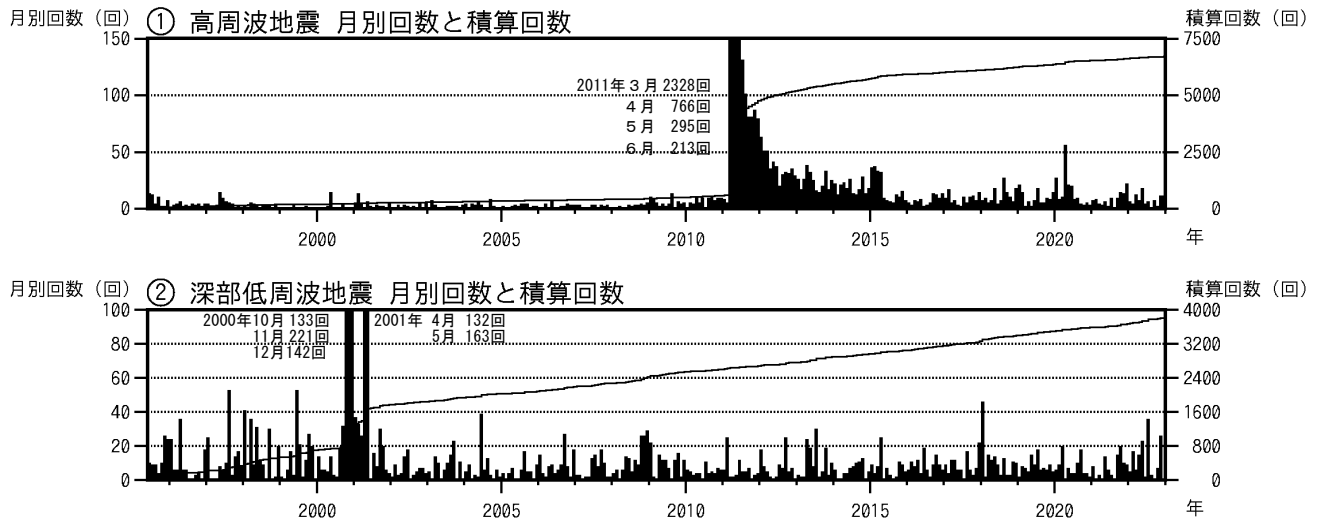


図2 富士山 月別地震回数（1995年6月1日～2022年12月31日）

① 高周波地震の計数基準

2011年3月22日まで 富士山頂上下動振幅  $0.5 \mu\text{m/s}$  以上、S-P 時間 3.0 秒以内  
 2011年3月23日～ (防) 富士第5上下動振幅  $0.3 \mu\text{m/s}$  以上、S-P 時間 3.0 秒以内  
 ただし、欠測等の場合は代替点（富士山頂、太郎坊）により計数しています。  
 (防) は、国立研究開発法人防災科学技術研究所 を示します。

② 深部低周波地震の計数基準

広域地震観測網により震源決定された地震のうち、①と同じ基準を満たす地震。

・2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したM6.4の地震以降、地震活動が活発になりました。2016年以降は、以前の状態までには戻ってはいないものの、概ね低調に経過しています。

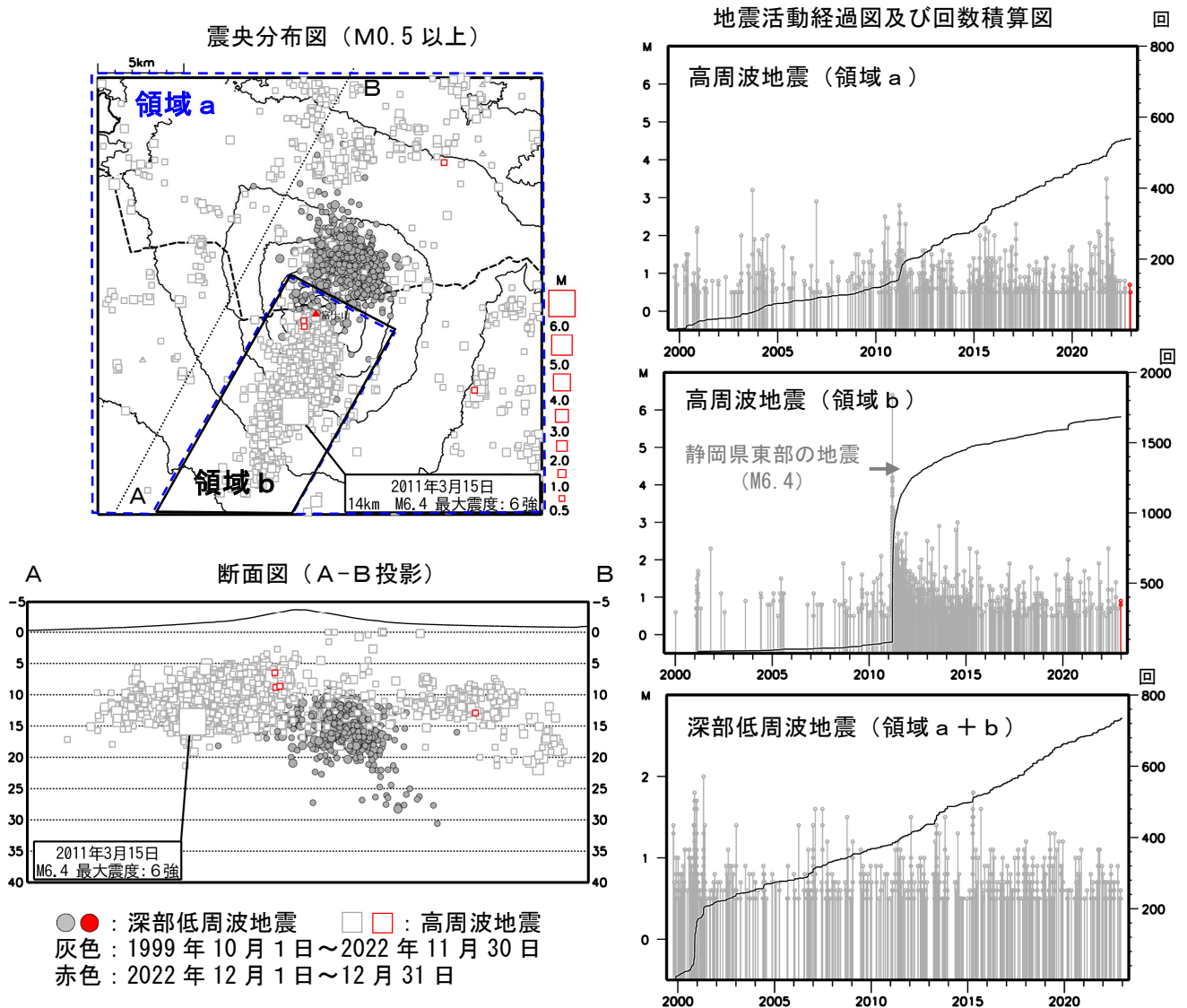


図3 富士山 広域地震観測網による山体及び周辺の地震活動(1999年10月1日~2022年12月31日)  
 広域地震観測網により震源決定したもの(M0.5以上)で、深さは全て海面以下として決定しています。  
 M(マグニチュード)は地震の規模を表します。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

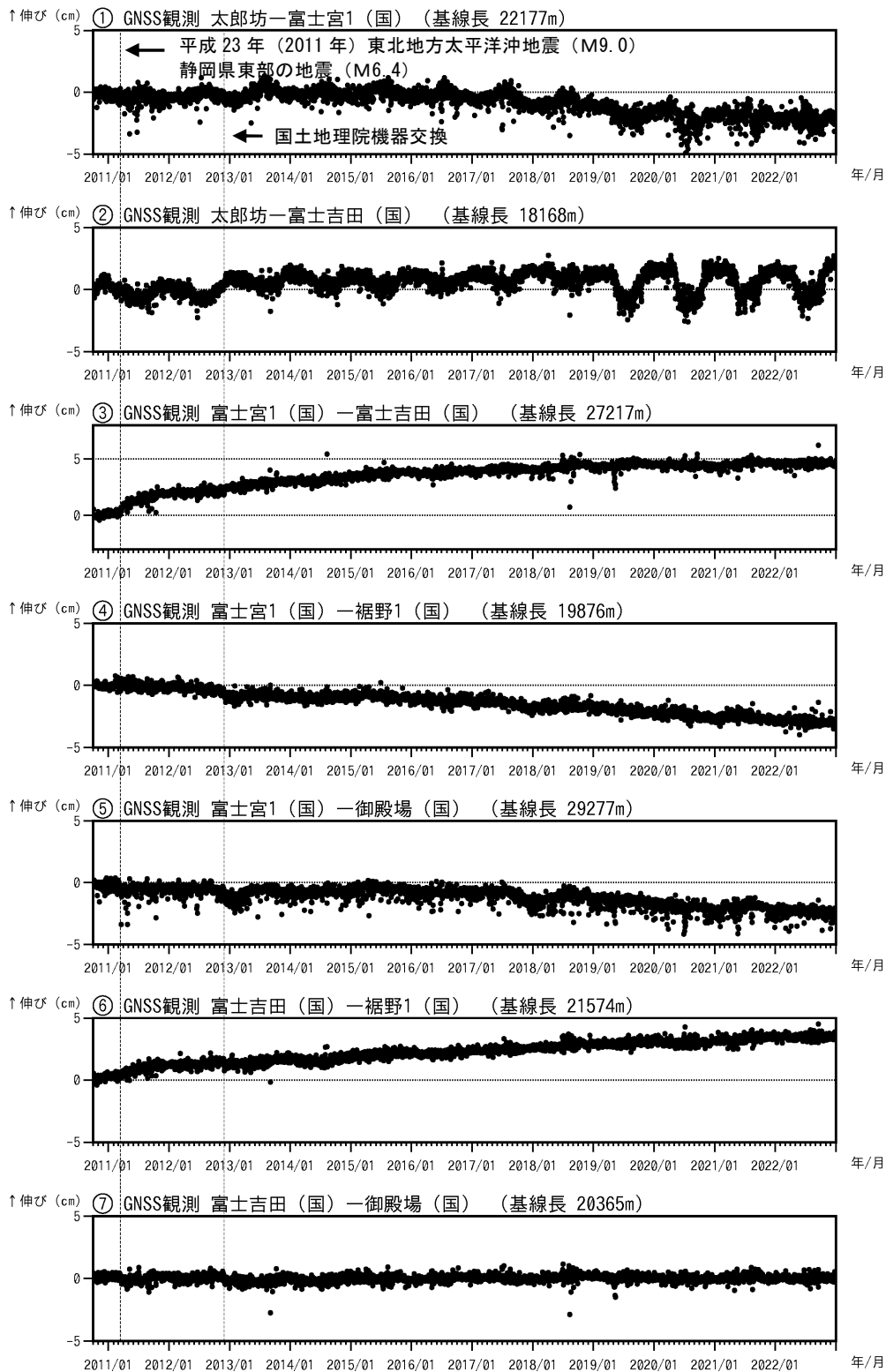
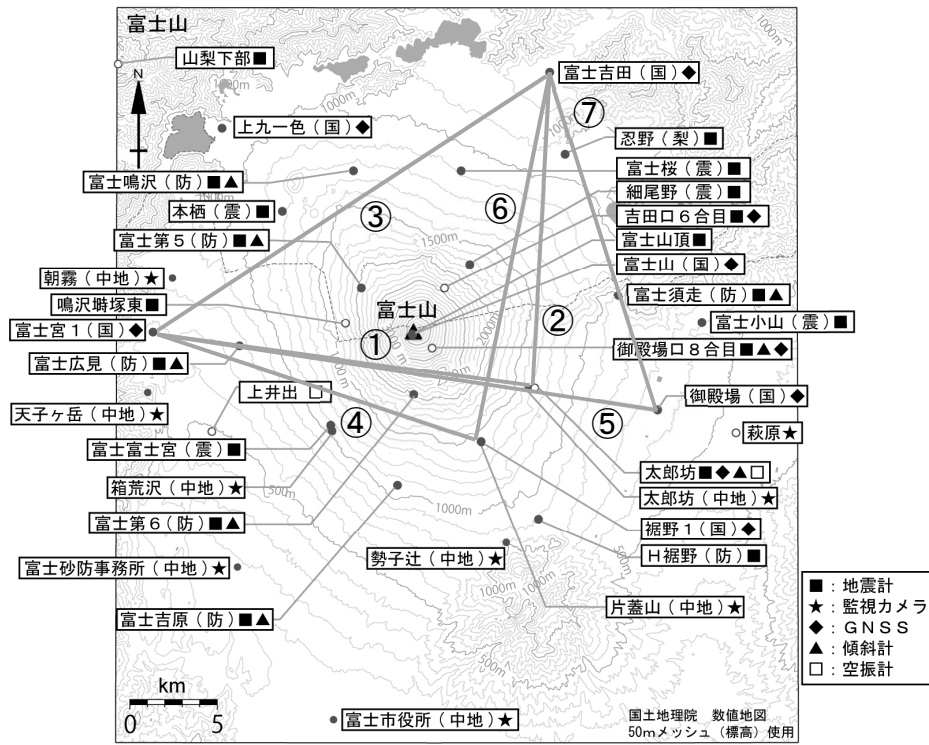


図4 富士山 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月1日～2022年12月31日）  
 (国)：国土地理院  
 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」及び2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震（M6.4）によるステップ状の変化を補正しています。  
 ①～⑦は図5のGNSS基線①～⑦に対応しています。

・火山活動によるとみられる変動は認められません。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、  
 (中地)：中部地方整備局、(梨)：山梨県

図5 富士山 観測点配置図

GNSS 基線①～⑦は図4の①～⑦に対応しています。